

日本遺産『桑都』と『織物』を活かす、持続可能なまちづくりの提案 ～親子・学生との連携により『桑都』八王子への関心を深める試み～

Proposal for the sustainable city as the Japan Heritage "SOHTO" with the young

中川侑樹¹⁾, 山田祐大¹⁾, 阪場航多¹⁾, 目黒悠輝¹⁾, 水嶋友隆¹⁾

指導教員：今野久子¹⁾, 研究協力者：巻田浩行²⁾

1) 帝京大学 経済学部 観光経営学科 観光経営学特殊講義

2) 八王子織物工業組合

キーワード：日本遺産『桑都』, 織物, まちづくり, 親子との連携, 学生との連携

1. まちづくりへの提案の背景と着眼点

八王子市では2020年「霊気満山 高尾山 ～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～」のストーリーが都内唯一の日本遺産に認定された。構成文化財には北条氏や高尾山関連の資源と共に「多摩織」「絹の道」など織物関連の資源が並ぶ。元より八王子織物の歴史は千百年に遡り地域の文化・産業の源である。

上位・関連計画¹⁾²⁾をみると、都は「特産品活用、PR発信、若年層、人材育成、関係者の連携」等、市は「日本遺産や地域の特色ある産業を活かした文化観光・産業観光」等の方向を示している。

以上を踏まえ本提案では、まちづくり資源として『桑都』とその成立を支える『織物』に注目し、①持続可能に向けて関連事業者(現在の担い手)の意向を尊重して連携し、②地域(住民・未来の担い手=子ども達)の『桑都』『織物』への関心を深める事を着眼点(まちづくりの目指す姿)とする。また、モニター体験の試行・評価を通して実証に基づく提案とする。

2. 織物業および地域との関わりの実況の把握

各資料調査³⁾と八王子織物工業組合(以下、織物組合)へのヒアリングを通して以下の現況を把握した。

(1)織物業の盛衰

織物業は八王子の一大産業として、時代に応じ着物からネクタイ等へと様態を変えて発展し、昭和30年代には織物組合加入は800社に上った。現

在は56社まで減少・零細化し、伝統工芸品『多摩織』の工芸士の高齢化も懸念される一方、P-Tie等の商品開発や国際展への出展、産学連携等を進め、日本遺産認定も追風に業界再生に尽力している。

(2)『桑都』『織物』と地域との関わりの実況

『桑都』『織物』への関心喚起の取組み(表1)として、「千百年を紡ぐ八王子織物展」等のイベントと共に、織物組合の手織り体験会(月1・2回)をはじめとする常設・定期的な機会がある。学校での織物学習も盛んで、織物組合も市立全小学校のうち希望校で出前講座を実施するほか、近隣大学等と連携としたデザイン開発も進めている。また、MICEツアーや旅行商品にも織物体験が盛り込まれている。2023年11月には「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子(文化庁・八王子市他)」が開催される。

表1 『桑都』『織物』に関する体験・交流等の近年の主な取組みの概況

交流機会	受入先	場所	時期	主な内容
イベント 千百年を紡ぐ八王子織物展	八王子織物工業組合	東京たま未来センター	23年1/28・29	多摩織の展示、手織り体験 ネクタイデザインコンペ(高・大生と連携) 参加費無料 長田美葉の講義を使用
イベント 絹の道の道資料館まつり	絹の道サポーターズシルクライフ研究会	絹の道資料館	23年 4/4～6	体験、実演、厚織機、久米島式紡ぎ機
イベント 八王子環境フェスティバル	八王子市・教育委員会・商工会議所等	東京たま未来センター	23年 4/6	展示 体験 日本遺産『桑都』のPR
施設 手織り体験会(月1・2回)	八王子織物工業組合	多摩織工芸館	22年6月(開館)～※予約制	材料費2000円、ランチョマット、マフラー等 開館以来1年半で、計33回(245人)実施
施設 織物展示、体験	絹の道資料館	絹の道資料館	※予約不要	参加無料
施設 織物見学、体験	長田夫妻	長田美葉		小学校に出向く場合もある
施設 織物見学、体験	澤井伸(伝統工芸士)	澤井織物工場	※予約制	コースター1500円、マット3500円
学習 小学生織物体験、出前講座(3・4年生)	八王子織物工業組合(希望校)	市立各小学校	2001年～継続中	希望校に出向き、織物の話や手織り体験 毎年 5～6校 5～6回(約2000人)実施
学習 織物学習	市立各小学校	各小学校	各小学校ごとに郷土学習等として、過去数十年間 実施	
物販 八王子織物購入	八王子織物工業組合	ベネック	22年6月(開館)～	オンラインショップ・商品開発PR
物販 絹製品購入	長田美葉	道の駅蔵山		

3. 『桑都』『織物』に関する住民意識の把握

地域(住民等)の側では『桑都』『織物』をどう捉えているのだろう。八王子に縁を持つ人にヒアリングを行うと(表2)、市内出身者は世代に関わらず織物学習の経験があり関心も高かった。一方、市外出

身者は子ども(学校)を通して関心を持っていた。織物体験者はおらず全員が希望していた。総じて、①市内学校の織物学習が浸透している、②子を通して親も関心を持ち易い、③機会があれば体験を希望する人が多い、等の様子が把握できた。

表2 『桑都』『織物』に関する住民意識(ヒアリング調査の主な結果)

『桑都』『織物』に関する意識、親子織物体験への参加意向	対象者
市内の小中学校で授業について様々なことを学んだが、体験したことは無く、とても関心がある。是非体験してみたい。	八王子市出身/日野市在住 40代、NPO主催 ※子:日野市の小・中学生
親が関心を持って、子どもも関心を持つと思う。	
かつては、市内の小中学生は全員、養を育てていた。織物や染色が盛んな記憶があるのは50~60代以降。若年層には実感が薄いのではない。	八王子市(中心市街地)出身/同所在住 60代、多摩市公務員
中心市街地(旧市街)近年はマンション新住民が多く織物のことは知らない。	
家の近所に織物組合があり、体験できるらしいとは思っていたが、体験したことは無い。参加しやすい体験機会があれば、体験してみたい。	※子:独立
子供が小学校で織物学習をして、学年によって体験もあったが、自分の子はコロナの影響等もあり体験はなかった。是非体験してみたい。	地方出身/八王子市在住 40代、八王子市在勤 ※子:南大沢の小・中学生
小学校の副校長やクラス担任は、織物体験を行内で告知することに前向きに協力したいとのことである。	
子供の高校卒業記念が八王子織物の小物で、八王子が織物のまちと知った。	地方出身/八王子市在住 40代、八王子市在勤 ※子:20代社会人
子供の高校HPの八王子織物の記事をきっかけに、関心を持った。	

※ヒアリング調査:23年6~8月実施、すべて対面方式

4. 親子体験(モニター体験)の試行と評価

織物組合の協力を得て、「親子体験」により『桑都』『織物』への関心を促す取組みを行い、親子4組9名(うち市内・外在住各2組)が参加した。体験の概要および織物組合の体験会との比較を表3に示す。

表3 親子体験(モニター体験)の概要と織物組合「手織り体験会」との比較

概要	2023夏休み 親子体験(モニター体験) 桑都八王子 織物及スゴロクにチャレンジ	織物組合「手織り体験会」
日時	2023年8月20日(日) 14時~16時半	月1~2回 土曜日(午前・午後各1時間半)
場所	多摩織工芸館(八王子織物工業組合内)	
参加者	親子4組9名(ヒアリング参加者、および、教員・学生の知人) 子:市内2名・市外3名/親:市内2名・市外2名 ※子は中3・小2、うち2名(小5・小2)は身長140cm未満	各回定員6名(申込先着順) 小学生は保護者同伴 ※小学校4年(概ね身長140cm)以上
内容	①親子で織物体験(伝統工芸士さんに習う) ②『桑都』の成立の紙芝居+関連資料配布(学生) ③親子で昔のスゴロク(学生)	①織物体験(伝統工芸士さんに習う) ②お話し、茶づくりなど(伝統工芸士さん)

(1)モニターアンケート結果(5段階リッカート法)

体験後、全員にアンケート(「全く当てはまらない(1点)」から「非常に当てはまる(5点)」の5件法(リッカート法)および自由記述を行った。結果を表4に示す。

表4 親子体験(モニター体験)のアンケート結果:全体評価および体験項目ごとの評価 (n=9)

	居住地	市内		市外		市内		市外			
		子(学年)	親の別	中	小	小	小	親	親	親	親
全体	今日の体験に参加して良かった	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
織物体験の評価	伝統工芸士さんに習えて良かった	5	5	5	5	4	5	5	5	5	5
	自分で織ってみられて良かった	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	親子で体験できたことが良かった	5	5	5	4	5	5	5	5	5	5
『織物』への関心	『織物』に以前から関心があった	3	4	5	3	3	5	5	5	5	5
	体験を通して『織物』に関心が深まった	4	5	4	3	3	5	5	5	5	5
	『織物』をまたやってみよう	5	5	4	4	3	5	5	5	5	5
	『織物』体験を周りの人におススメしたい	3	5	4	5	3	5	5	5	5	5
スゴロクの評価	スゴロクをして楽しかった	4	5	5	5	4	5	5	5	5	5
	大学生と一緒に遊べて楽しかった	4	5	5	5	3	5	5	5	5	5
	スゴロクをまたやってみよう	4	4	4	5	3	5	5	5	5	5
	『織物』関連のスゴロクがあれば良いと思う	4	4	3	5	2	4	4	5	5	5
日本遺産『桑都』について	八王子が『織物』のまちと以前から知っていた	5	5	1	3	1	5	5	1	1	1
	『桑都』という呼び方を以前から知っていた	5	5	1	1	1	5	3	1	1	1
	体験を通して日本遺産『桑都』に関心を持った	4	5	3	3	1	5	5	1	4	4
	日本遺産『桑都』の資料館等にも行ってみたい	4	4	3	4	2	5	5	3	3	3

全体評価、および、織物体験で「伝統工芸士さんに習えた」「自分で織った」「親子で体験できた」ことはほぼ全員が5点で、特に工芸士さんに関する自由記述が目立った。『織物』への関心は市外・低学年で低いが市内・高学年では比較的高い傾向が伺われ、親は全員5点だった。「工芸士さんに習う」

「自分で織る」体験は『織物』への関心を促す良いきっかけになり、織物組合の体験会では基本的には対象外の低学年でも、「親子で」行えば取組み易いと考えられる。スゴロクも親子とも概ね高評価だが、小2ではやや低かった。八王子商店街スゴロク(戦前のも)は絵が古風でストーリー性(成功したので○目進む等)も無いなど馴染みにくかったと思われる。次に、体験の本来の目的である『桑都』への関心は、居住地により評価が分かれた。市内の親子は八王子の『織物』『桑都』の呼び方を以前から知り、かつ、体験を通し『桑都』に関心を持ち、資料館等にも行きたいと答えた。一方、市外の親子は殆どが『織物』『桑都』を知らなかったが、体験を通し幾らか関心を持った様子(3~4点)も伺われた。(2)モニター体験からみた地域(住民等)への効果

①「親子体験」を通し地域(市内)の『桑都』への関心を深められた。市外の親子にも体験自体は好評で、観光メニューとしての可能性が示唆された。②工芸士さんとの交流で一層関心が惹き付けられた。③理解力や身長が不足気味の低学年でも、親と一緒にやることで作品を完成し、「すごいと思った」と体験を確り受止められた。④親子でのスゴロクや学生との交流は好評であり、今後、『桑都』『織物』を楽しく学べるスゴロクの開発が有効である。

(3)織物組合(関連事業者=受入側)からみた評価

親子との交流は良い刺激となった。事前に日時が判れば会場や人(工芸士他)の確保に問題は無く、今後の参加者増にも対応できる。スゴロクの開発は大変興味深く、資料や知見の提供に協力したい。

5. 今後の課題と提案(期待)

①織物組合・工芸士さんと連携し「親子体験」を展開する。参加者募集に努め、児童館ほか各施設での告知への協力を期待する。②『桑都』『織物』に関するスゴロクを開発する。製作資金への協力、織物組合や道の駅等での販売への協力を期待する。③工芸士さんの生きがいに一層繋がる交流機会も検討する(例:作品の感想を通じた交流等)。

【参考文献】

- 1)「東京都観光産業振興実行プラン」2022年
- 2)「八王子市基本構想・基本計画(未来デザイン2040)」2023年
- 3)八王子市文化財保存活用計画、八王子子どもレファレンス、各HP他多数